

2020年11月期
第3四半期
決算補足説明資料



ティアンドエス株式会社
(東証マザーズ 4055)

2020.10.14

T&S
Technology & Service

目次

1. 2020年11月期 第3四半期 決算サマリー P3
2. 2020年11月期 第3四半期 決算補足 P9
3. 2020年11月期 通期業績予想 P14
4. Appendix P19

2020年11月期 第3四半期 決算サマリー

第3四半期実績サマリー

- **売上高、利益ともに順調に推移**

- 売上高： 1,652百万円
- 営業利益： 215百万円

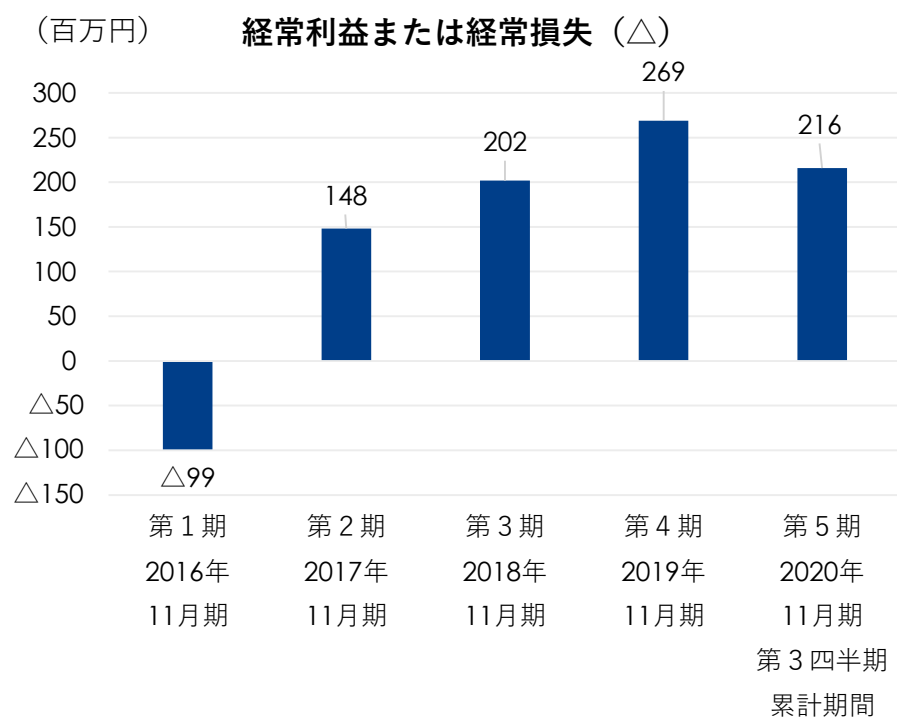
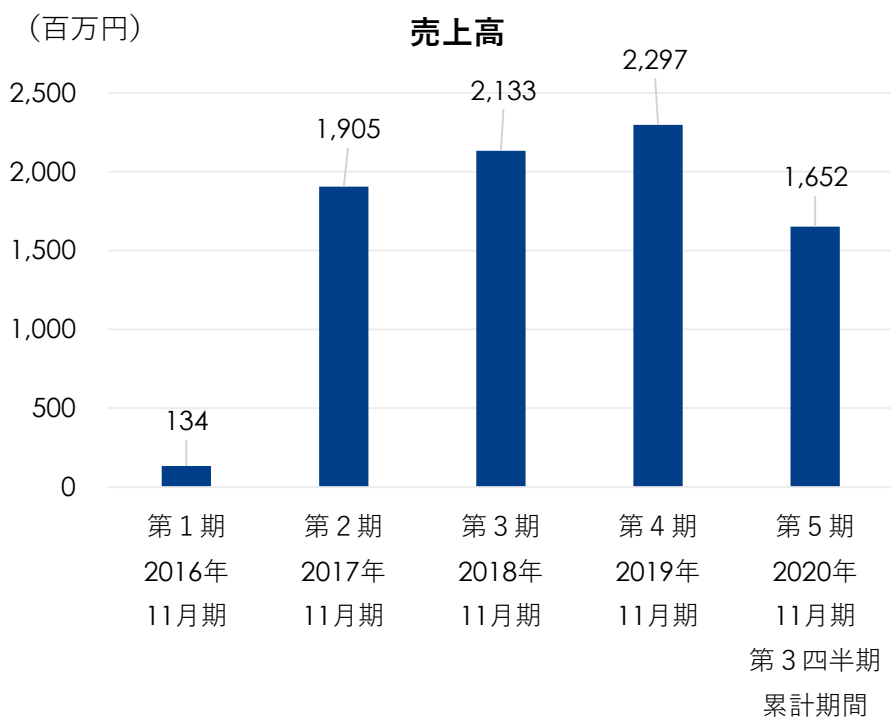
- **カテゴリー別売上高**

- ソリューション： 1,321百万円
- 半導体： 259百万円
- 先進技術ソリューション： 71百万円

業績推移（売上高・経常利益）

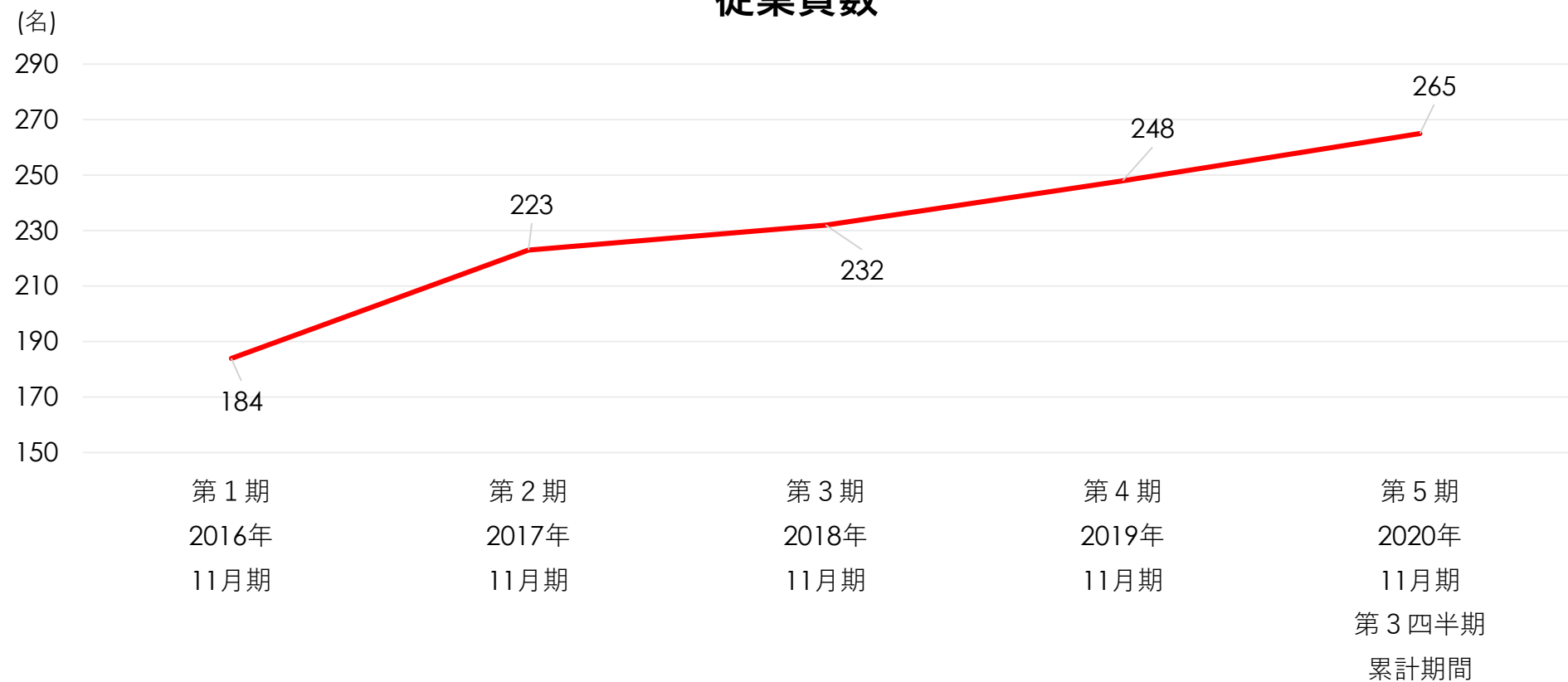
単位：百万円

	第1期 2016年 11月期	第2期 2017年 11月期	第3期 2018年 11月期	第4期 2019年 11月期	第5期 2020年11月期 第3四半期累計期間
売上高	134	1,905	2,133	2,297	1,652
経常利益 または 経常損失（△）	△99	148	202	269	216
経常利益率	—	7.8%	9.5%	11.7%	13.1%



従業員数推移

従業員数

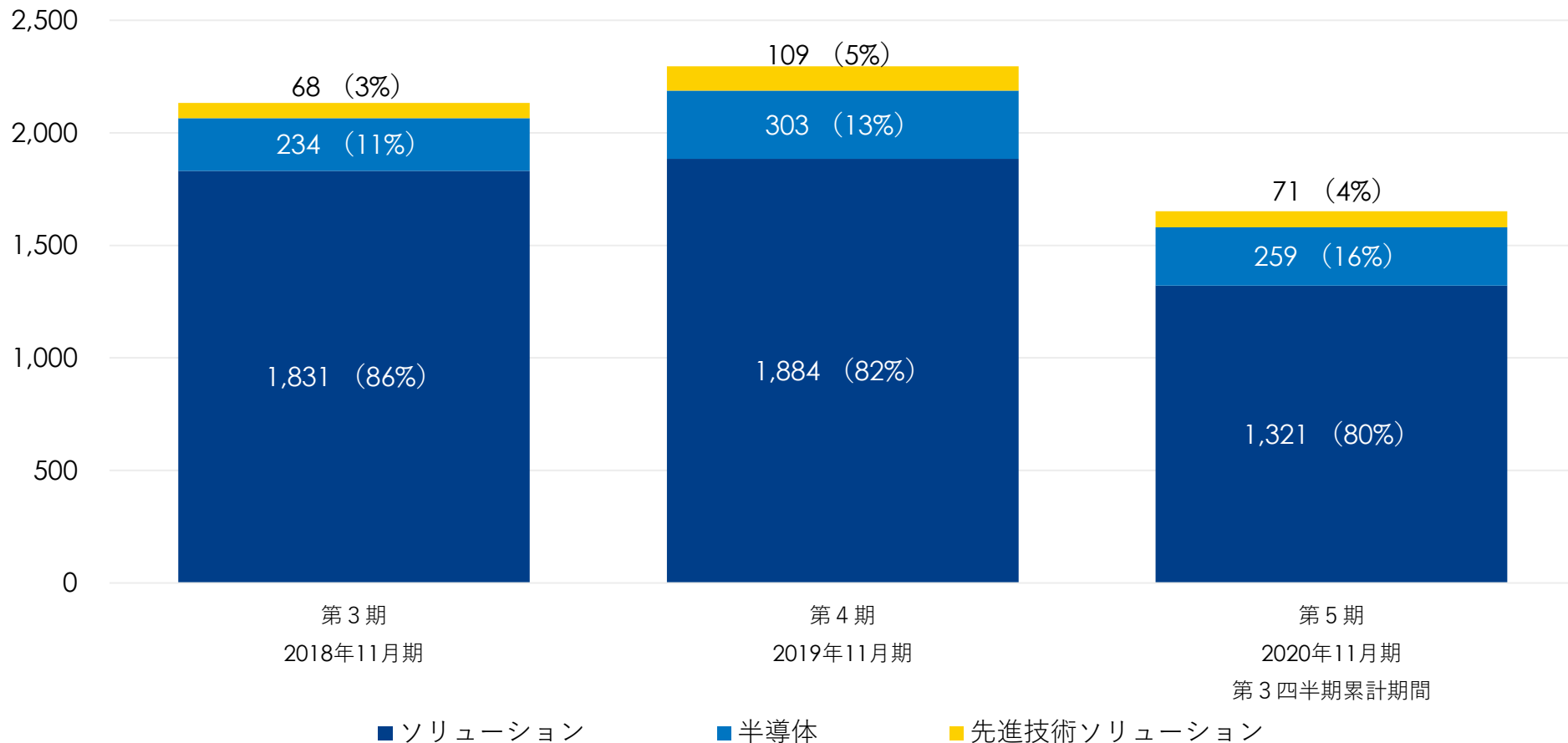


- ・ 技術者を中心に、従業員数は年々増加

カテゴリー別売上高推移

(百万円)

カテゴリー別売上高推移



- ・ 半導体及び先進技術ソリューションの伸び率が相対的に高い

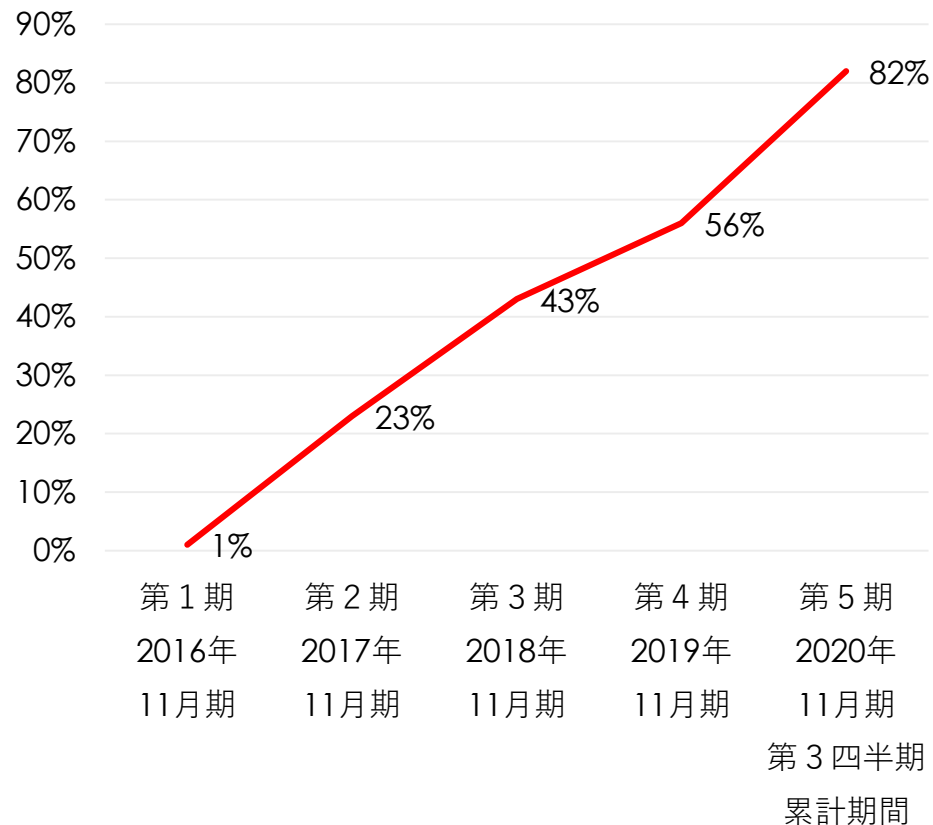
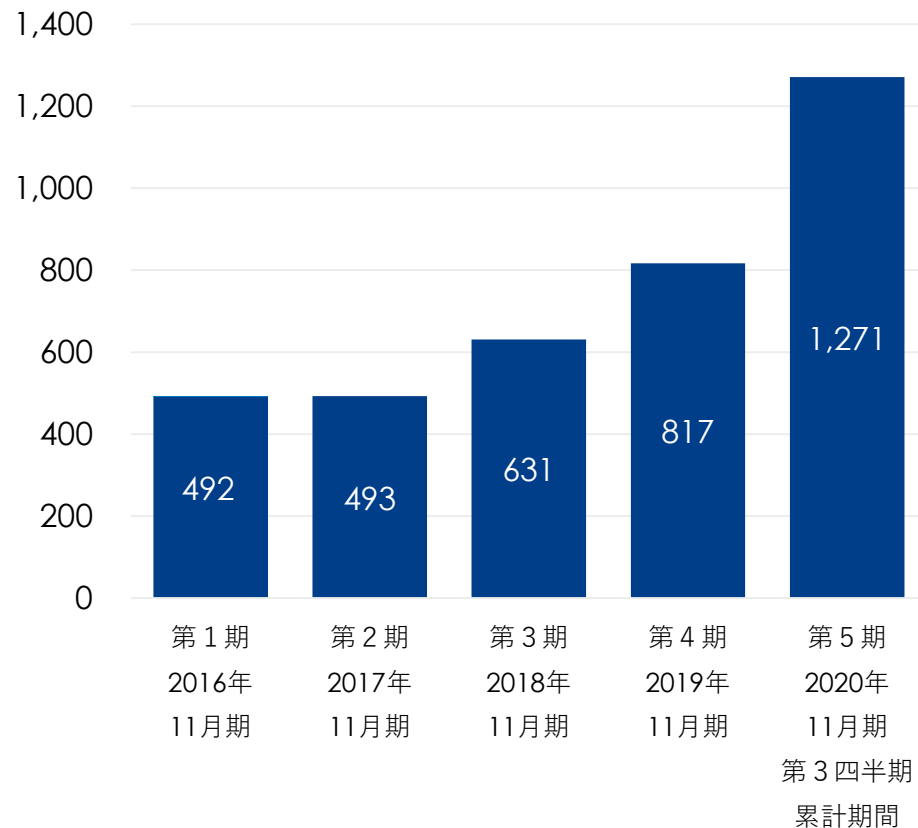
(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。
売上高のみカテゴリー別に集計しております。

財政状態の推移

(百万円)

総資産

自己資本比率



- ・ 公募増資により資本金と資本準備金が各218百万円増加
- ・ 増資資金及び利益の計上等で現金預金500百万円増加

2020年11月期 第3四半期 決算補足

• 我が国を取り巻く経済環境

- 新型コロナウイルス感染症の脅威
- 米中問題をはじめとする地政学リスク

• 当社を取り巻く事業環境

- 新型コロナウイルス感染症による案件取消等は発生していないものの、受注の遅れが発生
- 非常事態宣言中の人材採用活動が停滞し、採用計画に遅れが発生
- 「ニューノーマル」への動きは企業のIT化を促進し、当社にとっては追い風

• ソリューションカテゴリーにおける第3四半期累計の獲得案件

- 2020年6月：独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構の機構(R2)情報システム運用管理業務委託の競争入札を落札。2020年7月より3カ年契約
- 2020年6月：大手情報通信システム企業との新規取引を開始しシステム稼働維持・運用保守案件を受注
- 2020年7月：大手エネルギー関連装置メーカーとの新規取引を開始しシステム運用サービス業務を受注
- 東芝グループ、日立グループ、キオクシアグループ等との取引は順調に推移

• 半導体カテゴリーにおける第3四半期累計の獲得案件

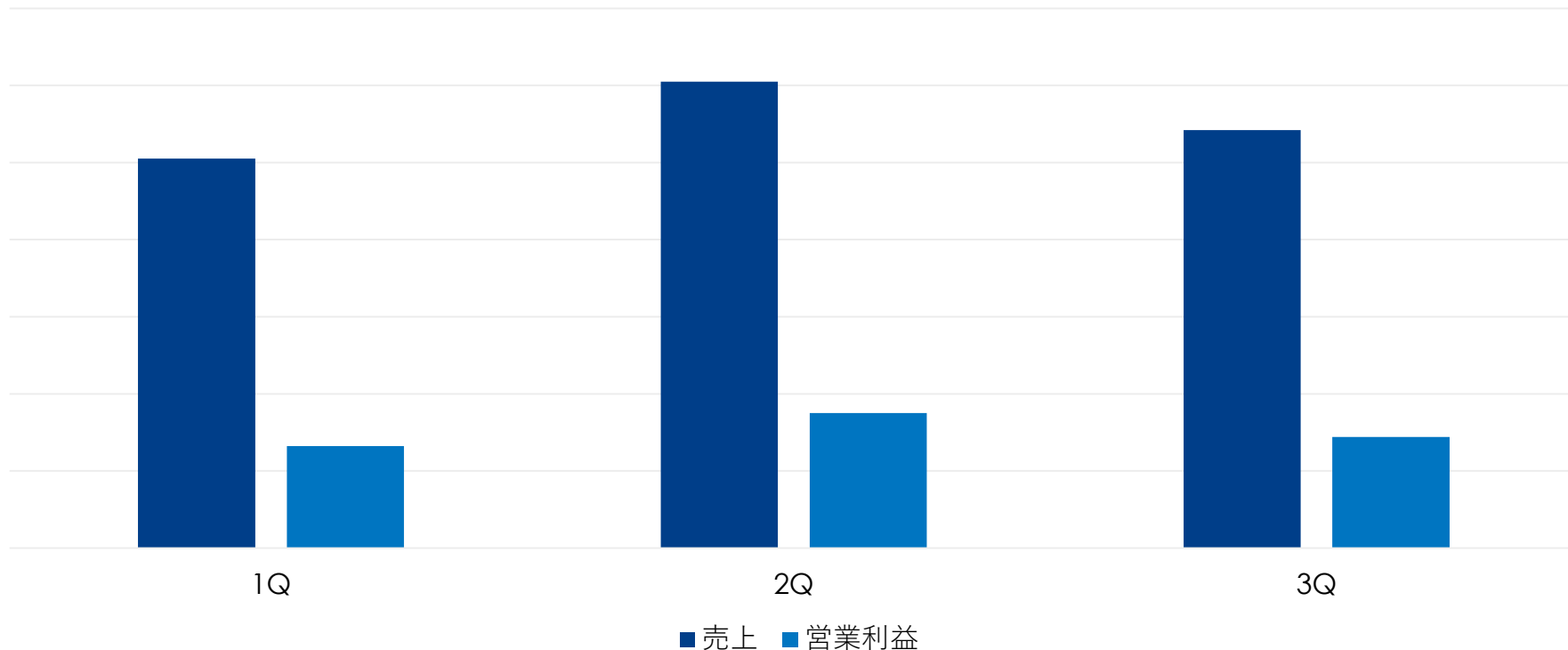
- 半導体工場向け派遣技術者15%増員（純増）による売上増が寄与

第3四半期累計トピックス（先進技術ソリューション）

- **先進技術ソリューションカテゴリーにおける第3四半期累計の獲得案件**
 - 各社よりAIソフトウェア開発等を受注
 - 2020年3月：大手LSI開発企業から先進技術案件を受注（新規取引）
 - 2020年6月：大手半導体関連機器メーカーから先進技術案件を受注
 - 2020年7月：大手情報通信企業中央研究所から先進技術案件を受注（新規取引）
 - 2020年8月：大手精密機器メーカーからシステム高速化に関する案件を受注（新規取引）
 - 2020年8月：大手半導体製造装置メーカーより先進技術案件を受注

季節変動要因について

2020年11月期 四半期別 売上高・営業利益 推移



- ・ 通常の傾向として、**第3四半期は第2四半期と比較し、売上・利益ともに減少傾向。**
→ 受託案件の納期は3月、5月、9月、11月（第3四半期以外）に集中するため。
- ・ 主にソリューションカテゴリーの四半期別売上高に影響する。

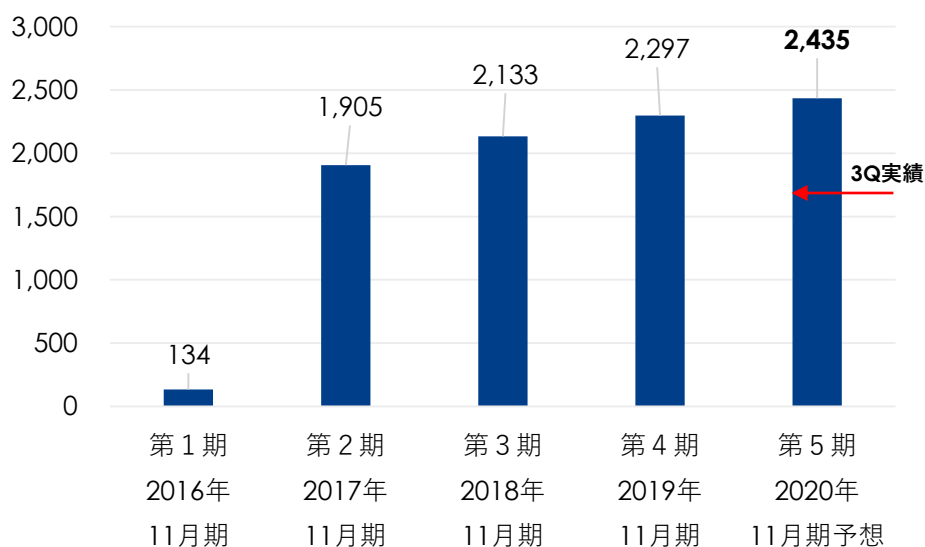
2020年11月期 通期業績予想

通期業績予想サマリー

	第1期 2016年 11月期	第2期 2017年 11月期	第3期 2018年 11月期	第4期 2019年 11月期	第5期 2020年 11月期予想
売上高	134	1,905	2,133	2,297	2,435
経常利益 または 経常損失 (△)	△99	148	202	269	300
経常利益率	—	7.8%	9.5%	11.7%	12.3%

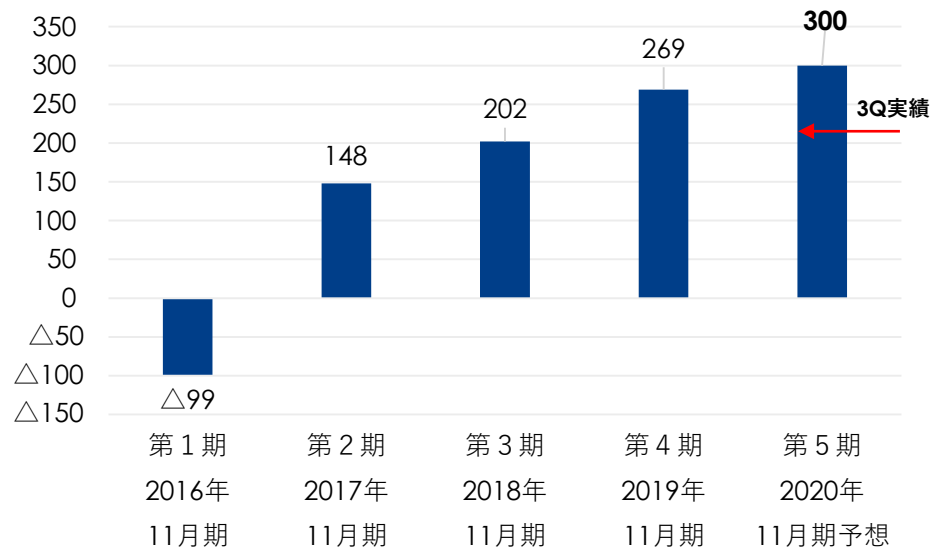
(百万円)

売上高



(百万円)

経常利益または経常損失 (△)



※2020/8/7公表の業績予想から変更なし。

• ソリューションカテゴリー

- 東芝グループ、日立グループ、キオクシアグループを中心とした継続受注を想定
- 新規顧客開拓による**受注増加**を想定

• 半導体カテゴリー

- キオクシアグループの半導体工場の建設に伴う**需要増加**を想定

• 先進技術ソリューションカテゴリー

- AI関連の国内市場規模拡大による**受注増加**を想定

配当予想

1. 配当政策の基本方針

当社は、将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させることを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、当該企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した配当についても継続して実施していくことを基本方針といたします。

2. 当期における配当方針及び配当予想の修正

当期につきましては、将来の成長に向けたスピントロニクス技術を用いたAIプロセッサに関する新規事業に係る研究開発投資に必要な内部留保資金を充実させることを優先するため、当期の株主様に対する利益還元は配当性向10%程度の水準を目途に実施してまいります。

これを受けて、未定としておりました2020年11月期配当予想を1株につき13円といたします。

なお、本件は2021年2月下旬開催予定の第5回定時株主総会に付議させていただく予定です。

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年11月期	—	0.00	—		
2020年11月期（予想）				13.00	13.00

本資料の注意点

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその現実や将来の業績を保証するものではありません。

経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。

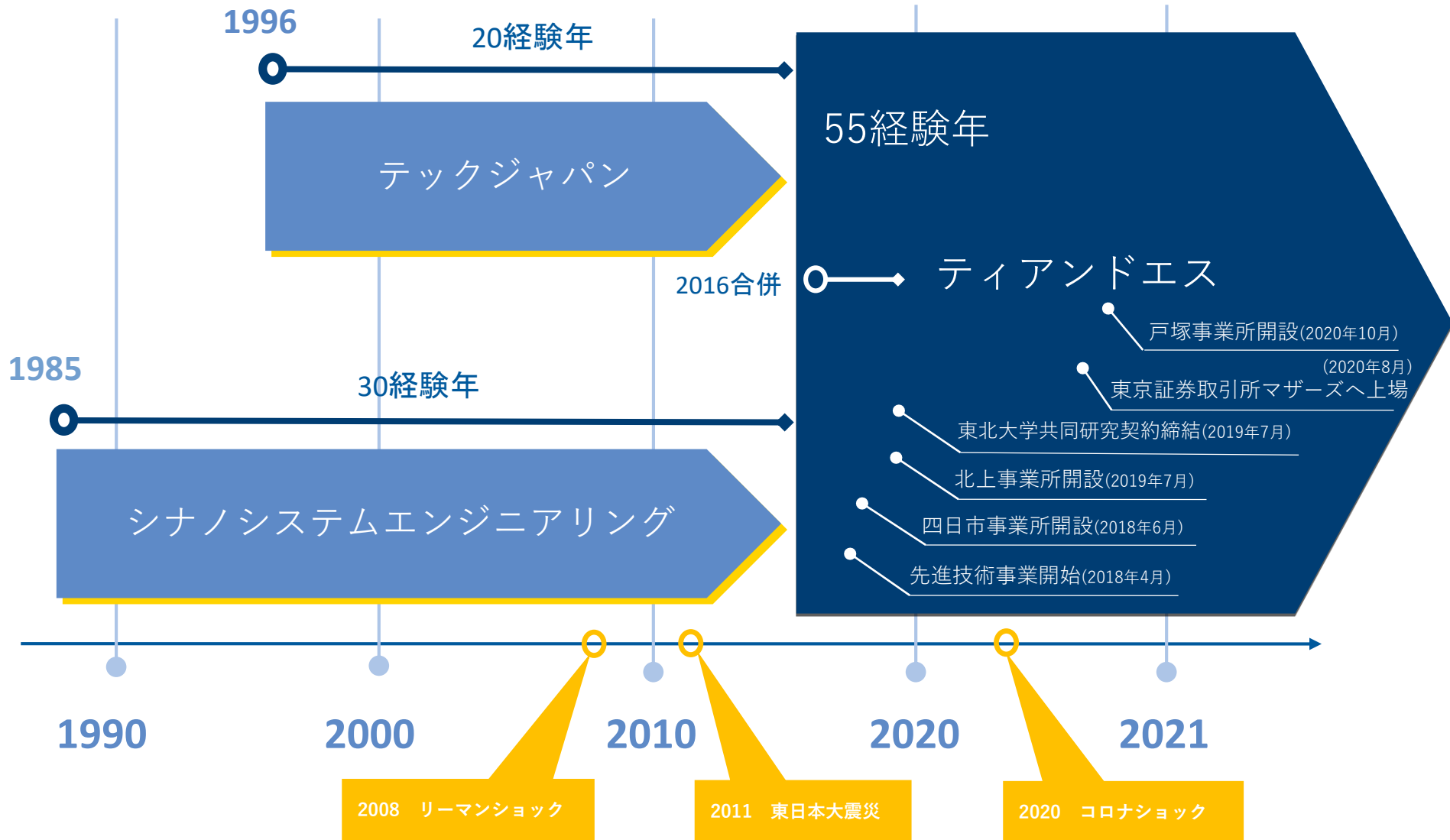
今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。

Appendix

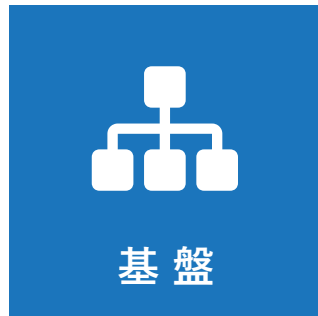
会社概要

会社名	ティアンドエス 株式会社
設立	2016年11月1日
役員	武川 義浩 ...代表取締役 執行役員 社長 福田 悦生 ...取締役 執行役員 システム事業本部長（博士（工学）） 木下 洋 ...取締役 執行役員 業務本部長（公認会計士） 遠藤 玲 ...取締役 執行役員 財務経理部長 法眼 健作 ...社外取締役 長谷川 智彦...社外取締役 土屋 雄二 ...常勤監査役 望月 篤 ...社外監査役（税理士） 藤江 勇佑 ...社外監査役（弁護士）
従業員数	266名（2020年10月時点）
所在地	本社 神奈川県横浜市西区みなとみらい 四日市事業所 三重県四日市市 北上事業所 岩手県北上市 戸塚事業所 神奈川県横浜市戸塚区
主な事業内容	大手企業顧客向けシステム開発及び運用保守・インフラ構築、AI（画像処理・認識・機械学習・論文アルゴリズム評価）等のソフトウェア開発を中心にサービスを展開
主な取引先	東芝グループ、日立グループ、キオクシアグループ、ソニーグループ、他15社

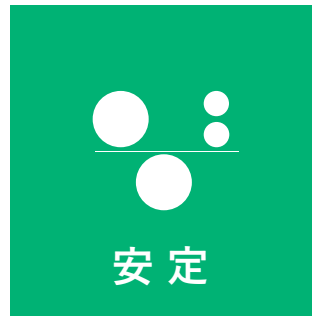
当社の歩み



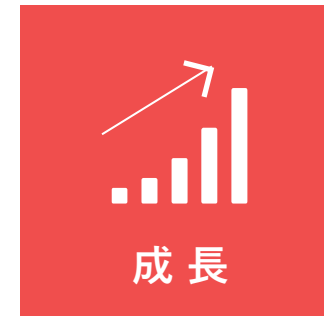
3つのカテゴリーとサービス内容



ソリューション
カテゴリー



半導体
カテゴリー



先進技術
ソリューション
カテゴリー

当社は、システム開発及びその関連サービスの単一セグメントですが、上記3つのカテゴリーに区分しております。

【ソリューションカテゴリー】

→あらゆる産業領域のソフトウェア市場における受託開発

【半導体カテゴリー】

→NAND Flash Memory工場の運用・保守サービス

【先進技術ソリューションカテゴリー】

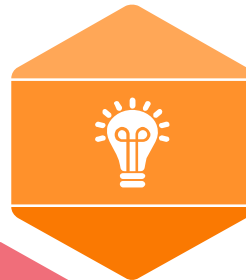
→AI関連のソフトウェア開発、及びスピントロニクス技術を用いたAIプロセッサの研究開発

ソリューションカテゴリー（基盤性）

製造業(工場、プラント等)やサービス業など幅広い産業領域のシステム開発を大企業から請負い、その後の運用・保守を含めたバリューチェーンを網羅したサービスを提供します。

①事業モデル

請負を中心とした受託開発事業



④社内体制

お客様のご要望に応じて、請負開発及び派遣、両方の形態で技術及び人材を提供できる社内体制を整備



②事業領域

産業領域に特化せず、製造業、サービス業など様々な業種のユーザー企業をターゲット



⑤事業の特徴（基盤性）

大手企業グループを中心とした顧客戦略に基づき、システム開発・運用保守を中心としたサービスを展開。請負開発だけではなく、第三者検証・運用・保守まで幅広く対応



Solution

③事業範囲

コンサルティング、要件定義、設計、開発、テスト、第三者検証、運用・保守までの
全ての開発バリューチェーンを網羅



⑥主な得意先

東芝グループ、日立グループ、キオクシアグループ



半導体カテゴリー（安定性）

キオクシアのNAND Flash Memory工場に当社技術者を派遣して、工場内システムの開発及び運用・保守、インフラ構築、ヘルプデスク業務等のサービスを提供します。

①事業モデル

半導体工場内への技術派遣に特化した事業

②事業領域

半導体工場（現在は、NAND Flashメモリ工場）に特化し事業展開

③事業範囲

半導体工場内のシステム開発及び保守・運用サービスや、ITヘルプデスク等半導体工場のITインフラストラクチャー運用支援全般

④社内体制

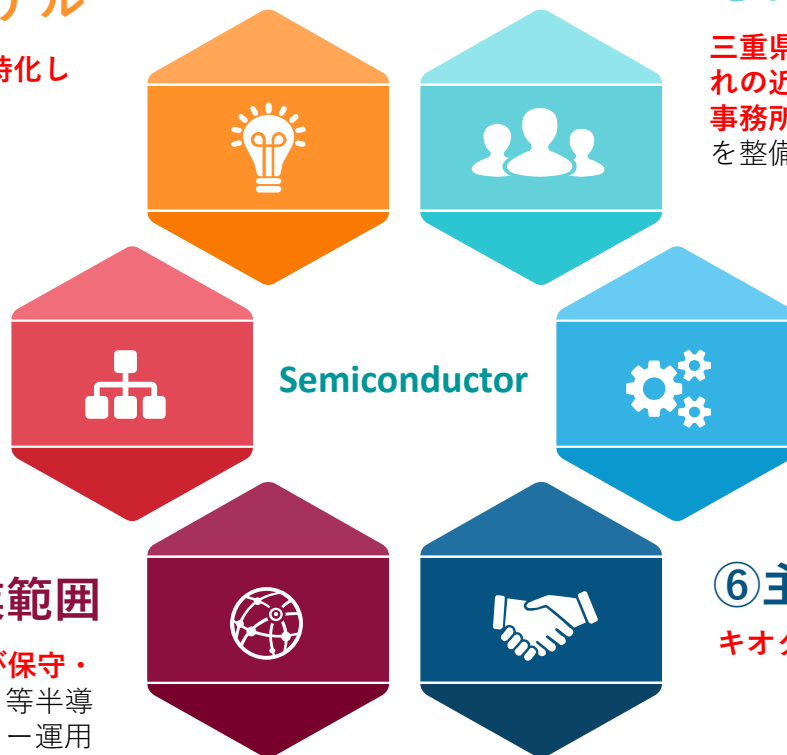
三重県四日市市及び岩手県北上市それぞれの近郊から人材を獲得し、それぞれに事務所を構え、地域に密着した派遣体制を整備

⑤事業の特徴（安定性）

請負開発と異なり、工場システムの運用や保守を中心に工場に常駐する形態で業務に従事していることから、工場が存続する限り安定的に事業が継続することと人員削減が極めて少ないこと

⑥主な得意先

キオクシアグループ



先進技術ソリューションカテゴリー（成長性）

- ・急成長が見込まれる産業領域AI（画像処理・認識・機械学習・論文アルゴリズム調査等）の開発、自動運転関連のソフトウェアの開発にターゲットを置いたサービスを提供します。
- ・今後、スピントロニクス技術（STT-MRAM）を用いたAIプロセッサ関連のソフトウェア開発に進出します。

①事業モデル

高度ソフトウェア技術の請負開発に特化した事業

②事業領域

急成長が見込まれる産業領域AI（画像処理・認識・機械学習）、自動運転等の市場にターゲットを置く。

③顧客の特徴

AI、自動運転等を導入する自動車、デジタル家電、カメラ等のメーカー

④社内体制

博士号を有する人材（6名）を中心に、高度ソフトウェア開発チームを結成
将来技術を先取りするためにAI及びスピントロニクス技術の共同研究を東北大学と開始

⑤事業の特徴（成長性）

今後急成長するAI、自動運転、画像系分野に特化し、事業の成長性を狙う。また、**スピントロニクス技術（STT-MRAM）を用いたAIプロセッサ関連のソフトウェア開発へ進出予定**

⑥主な得意先

自動車メーカー、精密機器メーカー、半導体メーカー

